

ファミリーホームおかえり

皆さんは、「ファミリーホーム」をご存じでしょうか？
「ファミリーホーム」とは、事情があり親と暮らせない子どもたちを養育里親経験者や児童養護施設職員経験者など経験豊かな養育者が自身の家庭に受け入れ養育する「家庭養護」の制度です。最大で6人の子どもたちを受け入れ家庭の生活を伝える場所です。



船方学区にある「ファミリーホームおかえり」にお邪魔しました。

安藤恵介さん、ふさ代さんご夫妻は令和4年8月にホームを開設され、現在保育園～高校生まで男女4人と生活されています。

ご夫妻にお話を伺いました。

鳥谷 開設されたきっかけは？

安藤夫妻 子どもたちが独り立ちしたのを機会に何か社会貢献ができることはないかと考え、平成23年から養育里親をしていましたが、今回適地を借りることができたためおもいきってファミリーホームを開設しました。

鳥谷 ホームの運営は大変なことが多いのではないですか？

安藤夫妻 なかなか馴染めなかったり、暴れたり、癖のある子もいたり正直、大変なところもありますが、「子どもは悪くない」という考えで気長に、子どものすべてを受け入れています。

鳥谷 どのようなところにやりがいを感じますか？

安藤夫妻 苦勞することも多いですが、子どもたちの笑顔を見るとなにもものにも代えがたいものがあります。生活力をつけさせ立派な社会人となるまで育てていきたい。生まれたばかりの子どもを引き取ったときは、我が家にまた天使がやってきたと思いました。

鳥谷 ファミリーホームのよいところは？

安藤夫妻 ファミリーホームは小規模養育なので、子ども達は本来の家庭に近い環境の中で生活できる場所だと思います。子ども達には、委縮することなく伸び伸びと育てほしいと思います。



安藤ご夫妻

鳥谷 まだ施設で暮らす子どもの割合が多いのが現状です。

安藤夫妻 子どもは社会の宝です。少しでも多くの方に里親制度を知っていただき家庭養護が進むことを願っています。

慈愛に満ちた言葉の端々からゆるぎない信念を感じ取ることができました。このようなご夫婦に育てられる子どもたちは、きっと立派な社会人に育ってくれることでしょう。

近年、虐待などで児童相談所へ持ち込まれるケースが増加しており、一時保護施設の空きも逼迫しておりショートステイを依頼されるケースも多いとのことでした。



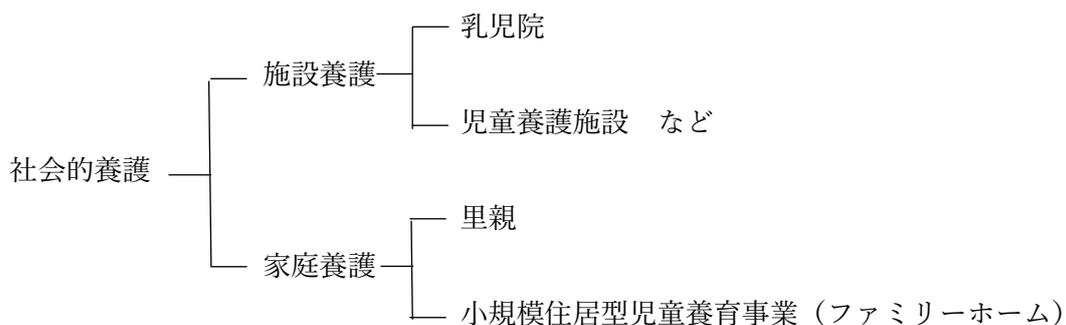
少しだけお部屋を拝見。一人1室です。

社会的養護の現状

それぞれの事情で親と離れて暮らす子どもたちは、全国で42,000人、名古屋市内に800人以上います。

そのうち里親やファミリーホームで暮らす子どもたちは18%程度で諸外国と比べその割合は低く、施設養護中心となっています。

そのため政府は、里親やファミリーホームによる「家庭養護」を推進しています。



少しでもたくさんの方に里親制度を理解していただければと思います。

里親に少しでも関心のある方は

名古屋市公式ウェブサイト「里親制度」

をご覧ください



つなごーや